

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-4		更新日	2025/2/20
サイト名		かこうがん 花崗岩を貫いて噴出した奈良時代開湯の温泉と山陰一の旅館街～たまつくり 玉造温泉			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	松江市玉湯町玉造温泉周辺			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(台) 山陰道 松江玉造ICから約5km、約8分			
留意点	2022(令和4)年度にジオサイトから文化サイトに見直した。				
サイトの解説	歴史・文化	奈良時代開湯といわれる古湯で、大国主神(おおくにぬしのみこと)と少彦名命(すくなひこなのみこと)が発見したと伝えられている。『出雲国風土記』にも、老若男女が毎日のように集い、市場をなすようで盛んに入り乱れて酒宴を楽しむ、とにぎやかな光景を活写している。湯の効能を「一たび濯(すす)げば形容端正(かたちきらきら)しく、再び沐(ゆ)あみすれば万病 悉(ことごと)く除(い)ゆ」と、一度入浴すると顔や肌が美しくなり、再びつかると万病が治るとし、必ず効き目 があるので「神の湯」と呼ばれていたことを伝えている。 玉造という名の由来は、この地にある花仙山(かせんざん)で良質の碧玉(へきぎょく)が採掘できたために、この地の人々が玉造を生業としていたことに由来している。玉作湯神社(たまつくりゆじんじや)には櫛明玉命(くしあかるだまのみこと)を祀っており、社宝として古墳時代の玉類や玉の製作道具など(出雲玉作遺跡出土品として重要文化財)が保管されている。 『出雲国風土記』では、玉造温泉は川(玉湯川)の邊から湧出しているとされている。広く一般に利用されるようになったのは、大正末ごろからのようである。42℃以上の泉源が、10数本あり、泉質はNa・Ca－硫酸塩・塩化物泉の微アルカリ性温泉で、最近「美肌・姫神の湯」としても紹介されている。			
	地形・地質、生物・生態等	玉造温泉のある地域は、花崗岩類(鵜(ひよどり)花崗岩～大東花崗閃緑岩)が安道湖側に突き出し、花崗岩類を取り巻くように砂岩・礫岩層(川合層)が堆積している。温泉水は、花崗岩から湧出し、地下20～120m、砂岩・礫岩層中に滞留している。温泉水の地下の流れは、東西性の断層によって規制されているとみられる。泉質はNa・Ca-SO₄・Cl 泉で、pH 7.0～8.3、温度は40° C 以上の高温で、最大で72° C に達している。平成2年に温泉街の西側の沢で掘削された温泉は、花崗閃緑岩から直接湧出しているもので、泉質はアルカリ性単純温泉、pH8.7、温度は40° C と報告されている。			
写真・図等					
参考文献		玉造温泉にある勾玉のオブジェ 玉湯川			